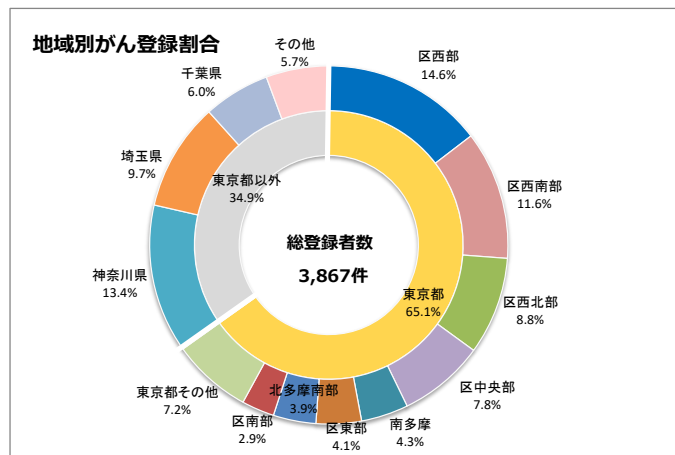
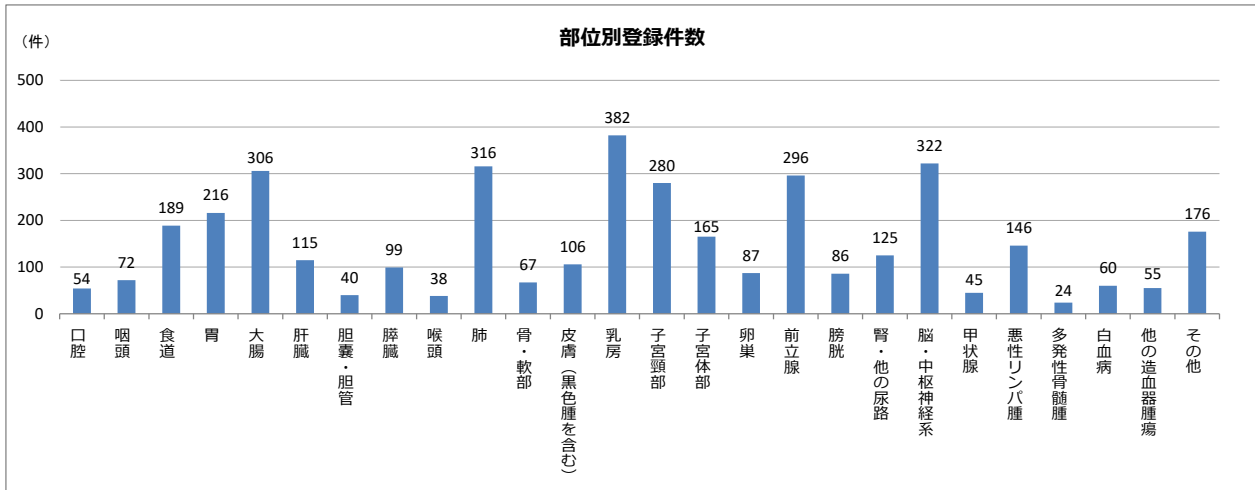


院内がん登録実績（2018年診断分）



部位別治療別件数

局在	手術		内視鏡	放射線	薬物療法	その他の治療※2	症状緩和的治療※3
	うち鏡視下※1						
口腔	42	0	0	8	8	0	6
咽頭	4	0	29	26	23	0	3
食道	58	54	83	31	60	0	19
胃	85	61	89	2	48	0	10
大腸	129	114	114	7	49	0	12
肝臓	35	21	0	1	24	43	15
胆嚢・胆管	19	0	0	0	13	0	24
膵臓	41	9	0	1	50	0	31
喉頭	4	0	7	22	7	0	1
肺	170	167	0	33	66	0	21
骨・軟部	49	1	0	4	13	0	7
皮膚（黒色腫含む）	81	0	0	6	10	0	2
乳房	284	0	0	140	304	0	4
子宮頸部	162	43	0	58	41	5	4
子宮体部	131	83	2	1	68	0	7
卵巣	69	6	0	0	50	0	2
前立腺	92	92	0	92	133	0	8
膀胱	2	0	55	0	40	25	2
腎・他の泌尿器	58	44	1	0	26	1	7
脳・中枢神経系	153	23	0	23	24	1	16
甲状腺	24	0	0	0	0	0	1
悪性リンパ腫	17	6	1	11	84	2	23
多発性骨髄腫	0	0	0	0	14	0	11
白血病	0	0	0	10	38	0	26
他の造血器腫瘍	0	0	0	6	18	1	25
その他	80	27	23	17	30	0	21
計	1,789	751	404	499	1,241	78	308

上記は診断日(起算日)から5ヶ月以内に行われた腫瘍縮小を目的とした、初回治療（または初回治療の継続）をそれぞれカウントしています。

※1 「鏡視下」とは皮膚を小さく切開し、そこから内視鏡などの光学機器を挿入して行われる侵襲性の低い病巣切除術の事です。（腹腔鏡、胸腔鏡、ロボット手術など）

※2 「その他の治療」には上記にカウントされないもの、RFA、TAEなどの血管塞栓術、レーザー治療等を含みます。

※3 「症状緩和的治療」は腫瘍縮小を目的としない、疼痛緩和のための薬剤投与、放射線、輸血、ステント留置などの減術等を含みます。

上記は2018年症例院内がん登録データより集計したものです。

※登録方法は「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式2016年度版」に準拠しています。